

アジア向けプログラムを中心とした学振の国際事業の展開

齋藤直樹,^{*,a} 前澤綾子^b

Development of JSPS International Scientific Platform Program in Asia Region

Naoki SAITO^{*,a} and Ayako MAESAWA^b

^aDivision of Asia & Africa Center for the Drug Discovery, Meiji Pharmaceutical University, 2-522-1 Noshio, Kiyose, Tokyo 205-8588, Japan, and ^bAsian Program Division, International Program Department, Japan Society for the Promotion of Society (JSPS), 6 Ichibancho, Chiyoda-ku, Tokyo 102-8471, Japan

エジプトを含めると世界の四大河文明の発祥地や三大宗教の聖地のすべては、アジア圏に含まれており、歴史的にこの地域は様々な面で重要な役割を担ってきた。一方、「くすり」の領域では、中国の漢方、インドのアユルバーダをはじめとして地域性豊かな特徴あるくすりや、その処方を開発・発展させてきた。また、アジア圏に生息する様々な生物資源が「くすりの種」として注目され、様々な新規医薬品が開発されてきた。さらに、インドや中国では、ごく最近になって、ジェネリック医薬品の製品化と販売が急激に行われるようになったが、それでも、大多数の新薬は、わが国を含む先進国の製薬企業を中心として開発されている。

さて、日本学術振興会 (Japan Society for the Promotion of Science; JSPS) は、1932年の設立以来、大学や研究機関の学術研究を支える基幹的機関としての役割を果たしている。JSPSの主な役割は以下の4つである。

- 1) 科学研究費を代表とする競争的資金の配分
- 2) 特別研究員制度等による若手研究者の養成
- 3) グローバル COE プログラムの運営等によるわが国の大学改革の支援
- 4) 学術の国際交流の推進

第3期科学技術基本計画に明示されたように、アジアとの学術交流や科学技術協力は、国際交流事業

の中でも近年大変重要視している分野である。JSPSにおいても中国・韓国をはじめとするアジア諸国との2国間・多国間交流を進めており、ネットワークの構築・研究者の養成・学術協力強化などの目的にきめ細かく対応して、対応機関との覚書に基づく2国間交流 (共同研究・共同セミナー、「日中医学交流事業」等)、若手研究者の育成や研究拠点の形成 (「外国人研究者招へい事業」、「アジア研究教育拠点事業」、「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」、「アジア学術セミナー」、「日中韓フォーサイト事業」等) を行っている。なお、バンコクと北京にある海外研究連絡センターは、現地の研究機関との協力による事業の実施や、双方向の情報収集・提供、また、日本の大学や研究者の現地での活動支援を行っている。さらに、2005年度よりアジア科学技術コミュニティ形成戦略を開始し、これら様々な事業によりアジア諸国とのパートナーシップの強化を推進している。

さて本稿以下4編の総説は、日本薬学会第128年会で実施されたシンポジウム「アジア向けプログラムを中心とした学振の国際事業の展開」の講演者各位のご理解ご協力の下、その講演内容をまとめたものである。わが国は、従来から、政治、経済、文化、学問などあらゆる領域で欧米志向が非常に強い。しかし、多くの石油産油国は西アジア地域に集中し、昨今の中国、韓国、インドをはじめとするアジア諸国の急速な経済成長など、アジアが世界をリードする時代が近い将来訪れる兆候がみられる。この紙上シンポジウムにより、研究教育の面によりわが国とアジア諸国との国際拠点交流の進むべき方

^a明治薬科大学アジア・アフリカ創薬研究センター (〒204-8588 東京都清瀬市野塩 2-522-1), ^b日本学術振興会国際事業部 (〒102-8471 東京都千代田区一番町 6)

*e-mail: naoki@my-pharm.ac.jp

日本薬学会第128年会シンポジウム S39 序文

向性を示すことができたなら幸いである。

謝辞 本シンポジウムの企画に当たり、貴重なご助言とご指導を賜りました九州大学大学院薬学研究院・内海英雄教授に深謝いたします。また、本シ

ンポジウムの企画・運営に際して、ご理解とご協力を頂きました^①日本学術振興会国際事業部長、大山真未氏、並びに、同学術システム研究センター審議役、宮寫和男氏及び同センター係長、清水美和氏に心より謝意を表します。